

# バイオハザードⅢ

2007(平成19)年9月27日鑑賞(試写会・TOHO シネマズなんば)

★★★



監督＝ラッセル・マルケイ／出演＝ミラ・ジョヴォヴィッチ／オデッド・フェール／アリ・ラーター／アシャンティ／スペンサー・ロック／マイク・エップス／イアン・グレン（ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント配給／2007年アメリカ映画／94分）

……T-ウイルスの蔓延、アンデッドの繁殖、地球の砂漠化は決して絵空ごとではない！ そんな風に思わせてくれるストーリーのつなぎ方はさすが……。『アリス計画』実行のためには山のように複製されたクローンのアリスでは役不足で、どうしてもアリスの生血が不可欠。そんなテーマが明確になる中、くり広げられていくアリスとアイザックス博士との最終戦の迫力も面白味十分。この映画は環境問題を頭の片すみに置きながら、そんな視点でますますパワーアップされた美しき女戦士の活躍ぶりをタップリと楽しめばいいもの……。今やミラ・ジョヴォヴィッチの代表作となったシリーズ第3作もついにファイナル……？



『ウルトラヴァイオレット』（06年）を経て、3たびアリスに……

昨今ハリウッド映画では、『トゥームレイダー』（01年）、『トゥームレイダー2』（03年）のアンジェリーナ・ジョリー（『シネマルーム3』278頁参照）や『エレクトラ』（05年）のジェニファー・ガーナー（『シネマルーム7』359頁参照）、また『チャーリーズ・エンジェル』（00年）、『チャーリーズ・エンジェル フルスロットル』（03年）の3人の女戦士（『シネマルーム3』274頁参照）やクエンティン・タランティーノ監督の『キル・ビル～KILL BILL～Vol.1』（03年）（『シネマルーム3』131頁参照）、『キル・ビル～KILL BILL～Vol.2』（04年）（『シネマルーム4』164頁参照）のヒロイン、ユマ・サーマン等、強く美しい女が続出している。

リュック・ベッソン監督の『ジャンヌ・ダルク』（99年）ですばらしい演技をみせたミラ・ジョヴォヴィッチが、一躍そんな強く美しい女の仲間入りをしたのは、T-

ウイルスに感染したアンデッド（ゾンビ）が登場するゲーム「バイオハザード」をモデルにした映画『バイオハザード』（01年）（『シネマルームⅡ』235頁参照）への出演によって。

その後、彼女は『バイオハザードⅡアポカリプス』（04年）（『シネマルーム6』300頁参照）、そして超人間「ファージ」として長髪ヘソ出しルックで大活躍した『ウルトラヴァイオレット』（06年）（『シネマルーム11』329頁参照）に続いて、今回はアンブレラ社の元特殊作業員アリスとして、3たび『バイオハザード』シリーズに登場。

## 地球の滅亡はすぐそこに……？

映画が描く地球滅亡のパターンは大きく分けて3つある。第1は、『ディープ・インパクト』（98年）、『アルマゲドン』（98年）のような彗星や、『宇宙戦争』（05年）、『トランスフォーマー』（07年）のような宇宙からの外敵によるもの。第2は、『ザ・デイ・アフター』（83年）のようにバカな人間の争い、とりわけ核戦争によるものだが、長いスパンで見れば環境破壊、地球温暖化による地球滅亡もこのパターン……？そして第3が、この映画のようにウイルスによって人間が病気になったり、突然変異したりするもの。14世紀に全ヨーロッパを襲ったペスト（黒死病）は第3の危機の具体的現れだったが、『バイオハザード』におけるT-ウイルスの感染とそれによるアンデッドの登場は、そのスピードが何万倍も速かったから、地球は大変。今や地球の滅亡はすぐそこに……？

## うまく物語をつなげたもの……

『ロード・オブ・ザ・リング』3部作、『ナルニア国物語』3部作、『パイレーツ・オブ・カリビアン』3部作、『ジェイソン・ボーン』3部作などは最初から3部作を予定して物語をつくったもの（？）だが、プレスシートによると『バイオハザード』はシリーズ化を予定しておらず、1作完結編のつもりでつくられたとのこと。そんな目でこのシリーズ第3作を観ると、うまく物語をつなげるものだと大いに感心……。

元特殊作業員であったアリスをアンブレラ社やT-ウイルスにどのように絡ませるか、そして敵を誰に設定するかがストーリーの骨格づくりのポイントだが、同時に舞台設定をどこにするか、周辺人物をどう配置するかも大きなポイント。その点シリーズ第3作では、アンブレラ社による人体実験の後、監視衛星に追跡されていることを

知ったアリスは、前作でも登場したカルロス（オデッド・フェール）や L.J.（マイク・エップス）たちの前から姿を消し単独行動をとっていたという、なるほどと思わせる設定に……。またそんな中、なぜかアリスは前作以上にパワーをつけていくことに……。



『バイオハザードⅢ』  
DVD レンタル中  
発売・販売：ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント



©2007 CONATANTIN FILMS INTERNATIONAL GMBH. ALL RIGHTS RESERVED.

## クレアたちの戦いの展望は……？

他方、アンデッドの増大と地球の砂漠化は加速度的に進み、今や地球上のどの都市もアンデッドだらけで人間がまともに生活している都市はゼロ。クレア（アリ・ラーター）を女性リーダーとする武装車団は、何とか各地に生存する人間を救い出そうと活動を続けていたが、アンデッドとの戦いの前に50人いた仲間が30人以下になってしまうことに。だって、地球上から次々と食料が消え、武器が消え、燃料が消えていくのだから、人間が生きていける可能性が急速に狭まっていくのはやむをえないこと。そのため、今はカルロスも L.J. もクレアの武装車団に合流して貴重な戦力となっているが、残念ながらアンデッドとの戦いは展望の見えない消耗戦の連続……。

シリーズ第3作は女性陣の活躍が顕著で、リーダーのクレアだけではなく、クレア車団の仲間たちのケガを手当てしている女性看護師のベティ（アシャンティ）や、プレスレットづくりが得意で団員たちに勇気を与える前向きな少女Kマート（スペンサー・ロック）も大活躍。しかし、アンデッドとの消耗戦が続く中、カルロスや L.J. も次々とアンデッドの犠牲に……。

こんな地球全体、人間全体の危機はきっとアンブレラ社も同じはず……。そこで今、アンブレラ社のアイザックス博士（イアン・グレン）は「アリス計画」に取り組んで

いたが、さてその「アリス計画」とは……？

## アリス計画とは……？

今、地下深くに設けられたアンブレラ社の秘密研究所の中で秘かに進められている「アリス計画」とは、要するにアンデッドの凶暴性を弱めようとする研究だが、なかなかうまく進展せず、逆にスーパー・アンデッドが生まれる始末……？

「アリス計画」のポイントは、その目的達成のためにはアリスの生血が必要だということ。アリスの人体実験にも関わったアイザックス博士は、そのためアリスの消息を血眼になって追っていたわけだが、アリスがクレア率いる武装車団と接触したことによって、これを監視衛星からキャッチ。「アリス計画」推進のため、アリスのクローンは山のように複製されていたが、それではやはりダメで、どうしてもホンモノのアリスが必要らしい。そのためここに、アイザックス博士とアリスとの最終決戦の火蓋が切って落とされることに……。

## この映画のホントの楽しみ方は……？

『バイオハザード』シリーズのストーリー全体を正確に把握するためには、プレスシートやパンフレットを丹念に読み込む必要がある。また、そうすることによってその方面のマニアの方々にはこたえられない面白いテーマがたくさん発見できるはず。したがって、そういう人にはこの映画が描く1つ1つのストーリーの裏づけをとってもらった方がいいが、私のような一般の観客にはその詳細はなかなか理解し難いもの……。

しかし、この映画のホントの楽しみ方は、そんな難しい科学論争(?)にとらわれず、ただミラ・ジョヴォヴィッチ演ずる野性味タップリの美しき女戦士アリスの活躍ぶりを楽しむことにあるのでは……？ そう考えると、これ以上詳しくこの映画の評論を書く意味も必要性もなくなってくるのは当然。

もっとも、この映画には真剣に考えるべき大切なテーマが含まれていることもお忘れなく。それは、T-ウイルスの恐怖、繁殖するアンデッドの脅威、そして地球の砂漠化、都市の崩壊などの現象は、すべて私たち人間が生み出したものだという。そんな大切な問題提起を頭の片すみにおきつつ、さあ皆さん、それぞれ好きなスタンスで、好きなようにこの映画を楽しもう。

2007(平成19)年10月4日記